

## 《老化によるもの忘れと認知症の違い》

	原因	もの忘れ	症状の進行	自覚	日常生活
老化によるもの忘れ	脳の生理的な老化	体験したことの一部を忘れる	あまり進行しない	忘れっぽいことを自覚している	支障がない
認知症	脳の神経細胞の変性や脱落	体験したことの全部を忘れる	だんだん進行する	忘れたことの自覚がない	支障がある

## 《三大認知症のそれぞれの特徴》

	アルツハイマー型認知症	レビー小体型認知症	血管性認知症
脳の変化	老人斑や神経原繊維変化が、海馬を中心に脳の広範囲に出現する。脳の神経細胞が死滅していく	レビー小体という特殊なものができることで、神経細胞が死滅してしまう	脳梗塞、脳出血などが原因で脳の血液循環が悪くなり、脳の一部が壊死してしまう
特徴的な症状	認知機能障害(もの忘れ等) もの盗られ妄想 徘徊 とりつくろい 等	認知機能障害(注意力・視覚等) 認知の変動 幻視・妄想 うつ状態 パーキンソン症状 睡眠時の異常言動 自律神経症状 等	認知機能障害(まだら認知症) 手足のしびれ・麻痺 感情のコントロールがうまくいかない 等
経過	記憶障害からはじまり広範囲な障害へ徐々に進行する	調子の良い時と悪い時を繰り返しながら進行する。時に急速に進行することもある	原因となる疾患によって異なるが、比較的急に発症し、段階的に進行していくことが多い